



SHALOM-NETWORK

発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3
TEL / FAX 024-567-5322

Web <http://www.nposhalom.net>
Email info@nposhalom.net

発行責任者：大竹静子

2025年ひまわりプロジェクトが間もなく始まります！

2025年
ひまわりプロジェクト

今年も間もなく栽培協力者様の募集が始まります。二〇二一年の東日本大震災・原発事故から始まった「ひまわりプロジェクト」も十四年目を迎えます。十四年の年月は、原発廃炉への流れを、事故以前の原発推進へと逆戻りさせてしまいました。

事故の現場では、昨年始めて溶け落ちたデブリの取り出しに成功したとニュースが流れ、本格的な廃炉への光がやっと見えてきたと言つ状況で、原発事故はまだ収束してないと考えるべきです。全国の原子力発電所が再稼働を始めている中で、福島原発事故が不慮の事故として、過去のできごととして忘れ去られるようなことがあってはなりません。

地震も昨年の元日に能登半島地震があり、夏には南海トラフ巨大地震注意情報が政府から出されました。南海トラフ巨大地震が現実のものとなれば、その被害の規模と内容は想像を絶するものとなるで

しょう。自然災害は、ビルの倒壊、地下街の水没、原発事故など、人工物による人災を誘発し、その被害は計り知れないものとなります。

今年、「ひまわりプロジェクト」の趣旨が「共生社会」を目指す取り組みであること、を明確にし、災害に備える防災意識を共有する相互支援ネットワークへと成長していくことを願っています。身近なところから出来ることを出し合い、助け合える人間関係を強めていくことが、被害を最小限に行きます。過去の教訓を無駄にしないようにしていきたいと思えます。

新年を迎えての心境を綴ってみました。

ひまわりの一粒の命
今年も新たな芽が芽吹く
太陽・大地・海
水・光・風
地球上のすべての生き物たち
植物・動物その中の人間
命の連鎖「共生社会」

芽吹く命が
次の時代の実を結ぶ
「ひまわりプロジェクト」

今年の初夢は、「ひまわりプロジェクト」が「共生社会」を目指すシンボル事業として、広く全国に展開されている姿です。

（シャローム代表 大竹静子）



ひまわりPJの情報はこちらから

ウェブサイト



himawari.nposhalom.net

ひまわり通信



栽培のコツなど更新中！

ウェブサイトからも
栽培の申込を
いただけます。



歳入のメモ帳

二〇二五年、今年も無事新年を迎えることができた。昨年も多くの大切な人たちがこの世から旅立ち、新年を迎えることができないこととなった。時の流れは、人々の悲しみを生み、そして癒やしていく。今年も生きていくことを許され、生きていることに感謝しなければならぬ。新年、大晦日を経て、死んで再び生き返るといふ神道の思想が、新年を迎えるといつ年を取るといふこととなるといふ。

若い時には、自分にも起きる現実とは考えられなかったが、年を経て両親が旅立ち、親世代の人たちのほとんどが亡くなり、孫の死も経験すること、生と死が、今を生きていることの裏表にあることを知らされる。死を意識することで、生きることの危うさともにも大切さを強く感じさせる。

昨年は、NPOの生みの親、社会福祉の実践家として尊敬する播磨靖夫氏が逝去された。播磨さんには、シャロームの活動を考へて行く上で多くの示唆を与えられてきた。同じ思いを共有するとき、それは次の世代に引き継がれて行く。播磨さんが世界中に飛ばしたたんぼの種をみんなが育てて行くことは、残された私たちの役割となる。

(T・O)

ひまわりプロジェクト 2025

ひまわり栽培の予備知識

当たりと風通しの良い所で栽培しましょう。

◆プランターについて

プランターは深さ30cm以上あると良いでしょう。ひまわりプロジェクトで使用する搾油に適した品種はとも大きくなるので、浅いと根が張れず大きく生長できなくなります。また、種同士が近すぎても大きくなれないので、30cmずつ離して植えると良いでしょう。

◆土について

プランターで栽培される場合は、花用培養土のみでも良いですが、できればプランターの底に底石を敷いて、花用培養土7・腐葉土2・牛ふん堆肥1を混ぜてからプランターに八分目まで入れます。地植えの場合は、1㎡あたり20kg程度の腐葉土や牛ふん堆肥を混ぜ込みます。自然農法の堆肥の考え方は、

が切れやすいので、ウッドチップなどで土の表面にマルチングすると蒸発が抑えられます。

「土を温める」「乾かさない」「固めない」ために入れます。栄養ではない考え方です。一般的に堆肥は肥料という考え方で、混入されてしまうと思

いますが、土は生きていますという感覚が必要なのだと思います。

土の中には様々な微生物がいて、植物の根は微生物とつながって根の範囲以上の所から養分を運んでもらったり、微生物が死ぬと分解され養分として吸収します。農薬や除草剤を使うと、これらの微生物がいなくなるため化学肥料が必要になります。そして虫が来やすくなるから農薬を使わざるを得なくなり、どんどん何かを入れないと育たない畑になってしまいます。

詳しくはシャロームのホームページ

ムページ内のひまわり通信に載せていますので併せてご覧ください。

◆栽培管理について

ひまわりのつぼみが出る前、株が充実していない時に水切れさせると生育が鈍るので、土表面が乾いていたら涼しい時間帯の午前中に水やりをしてください。葉が黄緑もしくは黄色味がかっている時は、葉に液肥を与えます。株の周りに追肥もすると良いでしょう。

葉にグンバイ虫やハダニが付いていて元気がない場合もありますので、葉をよく見て付いているようでしたら、水をかけて流してください。ひまわりの成長や花を見たり

自然環境を考えたりしながら、たくさんの方々と交流できることを願っています。
(ひまわりPJ 後藤)

メールアドレスが変わりました

ひまわりプロジェクト実行委員会のメールアドレスが変わりました。お問合せや栽培のお申込は以下のアドレスまでお願いいたします。

新メールアドレス

himawari@shalom-net.jp



お願いいたします



種まき時期の目安

- 寒地 (黒塗り) : 5月中旬～6月上旬
- 寒冷地 (点) : 5月上旬～6月上旬
- 温暖地 (横線) : 4月下旬～5月下旬
- 暖地 (縦線) : 4月中旬～5月中旬



◆種まき時期

まずは皆様のお住まいの場所によって種まきの時期が変わってきますので、下の地図のイラストのどこに当てはまるのか確認してください。ただしこれらは目安ですので、その年の状況をみながらまいってください。

ひまわりの原産地は北アメリカ大陸西部で、高温で乾燥した気候を好む植物です。日



▲グンバイムシ (軍配虫)。相撲の行司が持っている軍配に似ています。針のような口で葉の汁を吸います。



▲「ハダニ」。ハダニは1匹いればどんどん増える可能性があるため、日頃から気を付けて観察しておくことが大切です。(画像引用元「マイナビ農業」URL https://agri.mynavi.jp/2024_06_30_268561/)

教養講座 地元学を考える

第百四十七回「地元学を考える」
(二〇二四年十一月三十日開催)

「おもしろいまちの
つくりかた」
講師 江藤大裕氏

十一月二十日、終始笑顔の講師、江藤大裕さんのお話をお聞きしました。お名前をお聞きするのは初めてでしたが、お顔は存じ上げている方でした。

実は、昨年の九月八日に福島県男女共生センターで行われたイベント「未来館フェスティバル」で江藤さんをお見かけしておりました。展示販売に携わる各コーナーに声掛けし、コーヒーなどの飲み物の注文を聞き、配達している、高校生や大学生が活発に働く姿を見ておりました。

当日は私たちも、県民企画のコーナーに参加し、「共生社会を目指す『ひまわりプロジェクト』」で、活動の写真や製品の展示・販売で参加しておりました。一階から四階までの会場にたくさんの方が思い思いの活動を発表されておりました。

どんな活動があるのか…と見学を兼ねて歩いてみました。一

よう。子どもたちの笑顔が「あのカフェ」活動だったのですね…。

私たちがシャロームも、共生の地域づくりをテーマに「ひまわりプロジェクト」をはじめとする事業を展開しています。いろいろなところで、地域の課題を「じぶんごと」として関わりながら歩む方々が、たくさんおられることに力強さを感じました。

講演の中で、まちなか夢工房も一緒に「LAMPEDU CHOCOLAT」(ランプドショコラ)という特別な生チョコを誕生させたこと。それは献上桃の生産地である桑折町の桃農家さんの桃(規格外)を使った生チョコレットです。プロのチョコレット職人さんが技術指導され、夢工房で制作し、千葉県の高島屋で販売、売上は子ども食堂、無料塾、ひとり親支援に寄付されたとのこと。まさに「人々の心にそっと明かりを灯すチョコレット」【LAMPEDU CHOCOLAT】だったようです。(C.N)

若者たちが抱える悩みや課題に寄り添いながら、数えきれない地域の課題も自分事として、今何ができるかを一緒に考えて、ひとりひとりの可能性を引き出しながら、まち全体を見ていくようにしているそうです。人と人が支えあうことのできるまちを目指し、「楽しく」をモットーに活動しています。このことでした。江藤さんの話を聞きながら九月の未来館でのカフェ活動に参加していた若者たちの先には、「子ども食堂」に集う子供たちの笑顔が映っていたのでし

番外編

教養講座 「地元学を考える」雑感

この地元学講座が始まったのは、二十一年前に、「まちなか夢工房」を福島市から障がい者コミュニケーション事業として受託したときにさかのぼります。今年の一月の開催で二百四十八回を迎えました。

コロナ禍により人が集まるのを制限されたことによる休会は若干ありましたが、入場制限を機に動画配信も始め、既に五十本の動画がYouTubeにアップされています。シャロームのホームページから、いつでも過去の講座を見ることができ、この動画はシャロームの知的財産とも言えるものとなっています。

夢工房が地域に開かれたコミュニケーションサロンとなっていくためには、地域で活躍している人たちが集い交流する場となる必要と考へ、この教養講座「地元学を考える」を始めることと致しました。講座の内容は自薦他薦を問わず、何かに拘ってやっていると、あの人の話を聞いてみたい、講師の選定から依頼をみんな決めていくこととしています。

身近な人が講師となり、その日は主役となります。日頃から交流のある人が講師となるため、和やかな雰囲気の中で進め

られ、それがこれまで続けてきた秘訣だと思っています。ジャンルには拘らず、歴史、芸術、音楽、農業、健康、まちづくり、何でもありです。講師のこだわりをじっくり聴く機会となるため、いつも新たな発見があり充実した時間となっています。様々な分野で活躍している人たちと身近に接し、その考えを知ることから、地域内での連携協力関係は始まります。講座を続けていくことで、地域内の人々を知り、これを繋ぐネットワークが知らず知らずのうちに形成されています。世代を超えてこれからも続いていくことを願いつつ、一回一回を大切に続けていきたいと思っています。(T.O)



地元学講座 オンライン配信

「コロナ禍でリアル開催が難しくなった四年前から、教養講座「地元学を考える」のネット配信を続けています。毎月の講座開催後、動画の編集ができ次第YouTubeで配信しております。遠方の方にも地元学をお楽しみいただける好評です。ぜひご覧ください！」

QRコードからも動画をご覧いただけます

URL <https://www.youtube.com/@nposhalom>

YouTubeチャンネル名【公式】NPO 法人シャローム

チャンネル登録と動画更新通知をONにする、最新のアップロード動画が見やすくなります。

カーニバルワークスさんのウェブサイトはこちら!

Check

活動のご報告

2024年11月26日～2025年1月25日

- 11月28日 憩〈販売〉にじいろ day (福島市役所)
- 11月30日 第247回 地元学講座
「おもしろいまちのつくりかた」
江頭 大裕氏
- 11/30～12/1 憩〈販売〉障がい者週間展示販売会
(AOZ)
- 12月1日 夢工房〈販売〉ブラウンサンデー
(グランケット桑折)
- 12/6・13・リアン 相談会・ピアカウンセリング
20・27 (まちなか夢工房)
- 12月7日 リアン〈講座〉みんなの教室 第三回
(ウイズ・もとまち)
- 12月12日 憩〈販売〉にじいろ day (福島市役所)
- 12月20日 憩 〈ひまわり〉ひまわり種唐箕がけ
- 12月21日 夢工房〈イベント〉市民ワークショップ
- 12月22日 リアン〈講義〉福島医大看護部
- 12/24・27 夢工房〈イベント〉ふくろうパンづくり
体験
- 12月26日 憩〈販売〉にじいろ day (福島市役所)
- 12/28～1/5 年未年始休業
- 1月9日 リアン〈講座〉みんなの教室 第四回
(ウイズ・もとまち)
- 1/10・17・リアン 相談会・ピアカウンセリング
24 (まちなか夢工房)
- 1月17日 夢工房 一般市民向け事業所見学
- 1月18日 第248回 地元学講座
「津波予言」
三神 たける氏

活動予定

2025年1月26日～2月25日

- 2月1日 第249回 地元学講座
「SDGsと文化活動の融合
～音楽で描く持続可能な未来～」
平野 修氏
- 2月5日 〈ひまわり〉グリーンコープ福岡様
オンライン勉強会
- 2/7・14・リアン 相談会・ピアカウンセリング
21・28 (まちなか夢工房)
- 2月13日 リアン〈講座〉みんなの教室 第五回
(ウイズ・もとまち)
憩〈販売〉にじいろ day (福島市役所)
- 2月20日 楽膳〈講義〉福島市立矢野目小学校
- 2月22日 コープ助成金 試作品試食会 (青葉学
園交流ホール)



教養講座 地元学を学ぶ 第二百五十回予告

「伝えたい！伝わらない！～行動障害とは～」

〈講師〉高野 真哉氏
(ベーシック憩 施設長)

〈日時〉2025年3月8日(土) 13:30～15:00

〈場所〉まちなか夢工房 2階

〈参加費〉500円

〈講演内容〉

令和6年1月1日の能登半島大地震において、多くの方が被災され今も多くの人が避難生活を強いられています。その中で、福祉事業所を利用されている「行動障害のある方」の生活支援が困難であったとの報告を受けています。行動障害者生活支援についての「氷山モデル」と、そのご本人様、ご家族様の実際と想いについて触れていきたいと考えています。

※氷山モデルとは、自閉スペクトラム症の人の様々な行動を水面上にある氷山の一角に例え、その見えている部分だけに着目するのではなく、氷山の水面下の原因に着目して、支援の方法や本人の特性や強みなどに視点を置いて考えるツール。

〈講師紹介〉

1974年生まれ、福島市出身

1996年4月より、授産施設(現：生活介護支援事業所)勤務。

2012年、一般社団法人シャローム福祉会就労継続支援事業B型事業所「ベーシック憩」勤務

2016年、福島県サービス管理責任者養成研修会において、その年の福島県代表として全体講師を務める。

現シャローム福祉会「ベーシック憩」施設長・サービス管理責任者として勤務。

*三月六日(木)までにお申込みください。後日、シャロームホームページよりYouTube配信いたします。

編集後記

行きつけの漢方薬局で「屠蘇散」というお屠蘇のもと(山椒、陳皮など5~10種類の生薬を配合したもの)をいただいたので、今年のお正月は伝統的なお屠蘇を初めて作りました。大晦日に屠蘇散を日本酒に漬けて一晩おき、無病長寿を願い元旦のお雑煮を食べる前に飲むのが作法とのこと。お味は...うーん。身体に良さそう...。(A・O)